



前月末の子どもの姿

低月齢児：保育者の膝の上に座ったり、屈伸をするといった運動をする。・大人の姿が見えなくなると不安になり泣く。・声を出し呼びかける。・沐浴を喜ぶ。

高月齢：暑くなってきたため、体調を崩す子が増えたが、家庭との連絡をこまめにとることで情緒が安定している。・喃語が進み、自ら話そうとする。・水遊びを喜び顔にかかっても嫌がらない。

ねらい：信頼を築いた保育者の関係の中で、欲求を満たしてもらい関わることを十分に楽しむ・体調に配慮しながら健康に過ごす・水遊びを体験する中で、手や指を使った遊びを楽しむ
・喃語を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを満足するまで楽しむ。

安全・健康：とびひ・プール熱などの感染症を早期に発見し、適切に対応する・沐浴やシャワーの際は、保育者も温度を体感して確認・調節する・水遊びの際は、転倒、熱中症、水の温度に留意する。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ○●休息や水分補給を十分に行い、暑い夏も健康に。 ●顔や手、衣服が汚れた際には拭き、衣服の着脱を行い、清潔にする。 ○沐浴や衣服の着脱をし、体、衣服、身の回りにあるものを清潔な状態に保たれる。 ○安心できる保育者との間で、思いを受容してもらい生理的欲求を満たすことで、保育者との信頼関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●毎日、子どもたちの体調や機嫌を保護者に聞き、一人一人が健康に過ごせるような環境をつくる。また、水遊びが十分楽しめるよう、じょうろやスポンジなどの玩具を十分用意する。 ○●沐浴や水遊びの後に忘れず水分補給ができるようにそばに用意しておく。 ○●沐浴・水遊びやシャワーの後、すぐに着替えられるよう、着替えスペースの場所を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●暑くて前後の寝つきが悪く、機嫌も悪い。 ○●気温や湿度が合わずイライラしている。一方、上機嫌な子もいる。 ○●保育者の問いかけに笑顔を見せ、着替えることを喜ぶ。 ●着替えることを嫌がる。 ○保育者と関わって、生理的欲求を満たしてもらおうことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●保護者と子どもの体調について連絡を取り合うことで、機嫌が悪い時には何が原因なのか、すくに対応できるようにする。また、暑さで体力を消耗して休息が必要な場合は、いつでも休息できるようにする。 ●子どもとのスキンシップを大切にし、気持ちよく着脱が行えるようにする。 ○子どもが不快に感じないように、汗の始末など身の回りを清潔に保つ。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○立位で抱かれたり、腹ばいになり、体位を変えてもらうことを喜ぶ。 ○大人の語りかけやあやしに対し、じっと見つめたり、微笑んだりする。また、玩具に手を伸ばし握る。 ●水に触れ、冷たさや感触を楽しむ。 ●つかむ、握る、引っ張るなど、指先を使って遊ぶことを楽しむ。 ●絵本を見て指差ししながら喃語を発することを喜ぶ。 ●伝えたい気持ちを受け止められ、保育者とのやり取りを楽しむ。 ○ミルクを十分に飲み、生理的欲求が満たされる。また、様々な食材や形態に慣れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者は安心できる笑顔や姿勢で抱っこし、屈伸や腹ばいなどを喜んでできるような雰囲気をつくる。 ○音の出る玩具、動かして遊べる玩具を、子どもたちが手を伸ばして握って遊べるように玩具を準備する。 ●保育者も玩具と一緒に遊ぶ姿を示し、自ら触ってみたいくなる雰囲気をつくる。 ●子どもが何か伝えようとしているときは、優しい眼差しと理解しようとしている保育者の姿を示す。 ●発達に合った絵本を用意する。 ●保育者も「もくもく」「ゴックン」「おいしいね!」などと、子どもたちの表情を見ながら、一緒に食事をし、楽しい雰囲気をつくる。また、こぼれてもよい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○屈伸運動や腹ばいになりたがる(嫌がる) ○保育者が笑ったり話したりする姿をじっと見つめる。また、保育者と触れ合うことを喜び、自分から求めてくる。 ●保育者の反応を見て、「マンマンマン」「パパパ」など、切れ目のない喃語を話す。 ●自ら水に触れる。水の中に入っていく。 ●裸足で歩く。転倒することもある。 ●保育者と一緒に水に触れたり、玩具を使って遊んだりする。 ●喜んで絵本を見たり、保育者の模倣をしたり、何か伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりに合った抱き方や体位などを保育者間で話し合い、同じ認識を持ち子どもたちの個々の発達を促す。 ●子どもの視線になって子どもの言葉をまね、話す楽しさが味わえるようにする。 ●水遊びをする際は、直射日光が当たらないように配置に気を付ける。 ●柔らかい素材や、危険がないような水遊びの道具をつくる。 ●子どもの伝えたい気持ちを受け止め、さらに伝えたい雰囲気をつくる。 ○家庭の授乳を把握し、一日の活動量に応じて授乳する。 ○食品調査票を定期的に保護者と確認し、食べられるようになった食材を常に把握できるようにする。

職員との連携：一人一人の体調管理をこまめに伝え合うことで、感染症の早期発見に努める。・子どもの健康状態に応じた過ごし方ができるように保育者間で役割分担をする。

夏に多い感染症について症状や対応、感染の広がりを防ぐ手立てを確認しておく。・保護者に、子どものかわいい姿や成長を伝えることを共通認識する。

家庭との連携：探索活動が増えているので、身動きしやすい服装を準備してもらおう。着替えの機会が増えるので、調節しやすい着脱しやすい衣服を多めに準備してもらおう。・子どもの発した言葉を保護者に伝え、成長を感じられるようにする。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

・新入園児3名が加わったことで、在園児の3名も戸惑いを見せたり、ヤキモチや生活環境の変化で落ち着かないこともあったが、保育者同士で連携をばり、一人ひとりの情緒の安定を図ることができた。

・安心できる保育者が接することで、自分から目の前にある玩具に触れて遊ぶ姿も多く見られて良かった。

・体調を崩す子もいたが、家の様子を把握し職員間で連携を図り、無理のない活動(休息・食事の時間)を調節するなど、一人ひとりの体調に配慮しながら保育ができた。

・新入園児が増えたことで、今までの生活のリズムが崩れてしまい、在園児もしばらく落ち着きないこともあったが、一人ひとりの情緒や生理的欲求を満たすことで、それぞれ安心して過ごすことができたと思う。

・個々の発達段階に合わせて身体を動かせるような内容にしたり、好きな遊びができるように環境を準備するが、その子の体調や機嫌によっては休息を中心に考えた活動となることがあった。

また、クラス活動だけでなく高月齢児はさくらんぼの活動に参加したり異年齢児の関りを取り入れるようにした。刺激を受けることで活動にも活気がでる。

・初期～完了食と食事それぞれ個々で形態が異なる中、離乳食提供間違えないように職員間の声掛けをして予防した。また、離乳食の内容や状況について保護者と連絡を密に取り、更に栄養士(調理師)との連携を図りながら、様々な食材を食べられるようにした。